

地域審議会第5期(最終期)答申 会 議 録

日 時：平成25年2月1日（金）

場 所：周南市役所2階 第2応接室

地域審議会第5期（最終期）答申について

平成25年2月1日（金） 14時30分から

周南市役所2階 第2応接室

1 開式

2 各地区会長による答申書提出および答申内容説明

徳山地区地域審議会	有馬	俊雅	会長
新南陽地区地域審議会	宮崎	進	会長
熊毛地区地域審議会	酒井	隆行	会長
鹿野地区地域審議会	安永	守	会長

3 市長あいさつ

4 閉会

地域審議会第5期（最終期）答申について

日 時 平成25年2月1日（金） 14時30分から
場 所 周南市役所2階 第2応接室
出席者 徳山地区地域審議会 有馬 俊雅 会長
新南陽地区地域審議会 宮崎 進 会長
熊毛地区地域審議会 酒井 隆行 会長
鹿野地区地域審議会 安永 守 会長
木村市長、青木副市長、山下企画総務部長、手山教育部長

会 議 録

1 開 会

2 各地区会長による答申提出および答申内容説明

【徳山地区地域審議会 有馬俊雅 会長】

新市建設計画の進捗状況については、ハード事業とソフト事業に各評価基準を設け、評価した結果をまとめました。

今後のまちづくりの方向性については、周南市まちづくり総合計画後期基本計画に掲げる7つの分野別計画について、今後の改善若しくは強化が必要と思われる事業をまとめました。

徳山地区地域審議会では、周南市全体のまちづくりという意識での議論となったため、答申もそのような視点で仕上がっております。

1. 新市建設計画の進捗状況について

ハード事業について

ハード事業につきましては、徳山地区に関係する事業のうち、8事業が未実施でございました。

その8事業を『実施の必要性が高い事業』と『実施の必要性が低い、または、必要性を再検討すべき事業』の2つの基準で評価し、その結果を2ページ以降にまとめました。

財政が大変厳しいとお聞きしておりましたので、特に、徳山地区の将来の活性化が見込める2つの事業を『必要性が高い事業』と判定いたしました。

『必要性が低い、または、必要性を再検討すべき事業』と判定した6事業のうち、2ページの『合併記念公園化事業』及び3ページの『交通教育センター建替え事業』につきましては、周南緑地の一体的な見直しをされる中で、市民の誰もが愛着を持てるような公園にするという視点でご対応いただきますようお願いいたします。

ソフト事業について

ソフト事業は、50事業ございましたので、全ての事業について個別に評価を行い、意見を述べさせていただきました。

評価結果につきましては、12ページから14ページに項目ごとに挙げております。

全体的には、重要性があり、満足度もまあまあと判定した事業が多かったように感じています。

5ページ以降につきましては、ソフト事業のリーディングプロジェクト9事業について、審議会の意見をまとめました。

主な部分のみ申し上げますと、5ページの『資源循環型社会形成事業』は、ソフト面の充実において、特に、ごみ分別が難しい人たちへの支援・啓発の強化をお願いします。

『子育てサポート事業』につきましては、これまでの実績は高く評価していますが、今後の人口増加に向けての支援強化を望みます。

6ページの『高齢者いきいき事業』では、高齢者事業は充実していますが、支援を必要とする高齢者に対してはより手厚い支援、元気な高齢者に対しては地域活動で生き生きと暮らせるような仕組みづくりが必要ではないかと考えております。

7ページの『国際交流事業』は、特に姉妹縁組について、再度検討いただきたいと思えます。

『市民参加型イベントの創造事業』については、特色であるとか、市民の参画といった要素が不足しているため、市民がもっと愛せるようなイベントを考えたり、企画の段階から市民参画を進めていく必要があるのではないかと考えております。

8ページの『地域コミュニティ形成事業』については、周南市全域を規模としたコミュニティ組織が形成されていますが、参加者が限定されていたり、イベント中心の組織になっているように思えます。

市とコミュニティの在り方について考え直しつつ、今後も引き続き市の支援をお願いします。

2. 今後のまちづくりについて

9ページからは、今後の徳山地区のまちづくりの方向性として、周南市まちづくり総合計画後期基本計画に掲げる7つの分野別計画について、それぞれ審議しました。

合併して10年が経ち、新庁舎や駅ビルの建設、近鉄松下百貨店の撤退など、以前と状況が変わっているため、判断が難しいところもございましたが、市民目線で計画の見直しを行いました。

まず、9ページでは『コミュニティ活動の活性化支援』を提言しています。

コミュニティの在り方、特に中山間地域は人口の減少という問題がありますので、コミュニティの交流なども含めて、より支援が必要と考えております。

10ページでは『人権問題の解決に向けた取り組み及び人権教育の推進』について提言しています。

いじめ解決は人権の基本的部分ということで、より多くの人が入権教育に参加していただけるよう強化の必要があると思います。

また、『高齢者事業の効率化による福祉の増進』につきましては、自助、共助を含めて、高齢者が積極的に社会参画していただけるような支援を進めていくとともに、財源については、一部、子育て方面に回していただきたいと思います。

最後になりますが、11ページの『中心部の一体整備』につきまして、人のにぎわいの創出のため、中心部の社会資源を活用してほしいと思います。

このことにつきましては、国や県と連携しながら、住みよい環境だと感じられるような、地域づくりをお願いします。

以上が、徳山地区地域審議会の答申となります。

最後に、個人的な感想になりますが、審議会を通して、委員の皆様が熱い思いで議論していらっしゃるのを見て、このまちを愛する気持ちは皆が持っている、ということを改めて感じました。

その気持ちをどのように反映するかについては難しい面があるかもしれませんが、各種事業等を含めて、市民の参画を保証していくことを徹底していただければと思います。

【新南陽地区地域審議会 宮崎進 会長】

1. 新市建設計画の進捗状況について

新市建設計画の進捗状況につきまして、本来であれば、全ての事業を実施していただくことが筋ではないかと思いますが、合併後10年が経過した中で、時代も変わっているため、富田、福川、和田それぞれの地域住民の考えを考慮して答申をまとめました。

まず、『和田地区の総合庁舎整備事業』です。

和田支所及び公民館は老朽化が進んでおり、土砂災害特別警戒区域に入っているため、早急に庁舎を整備する必要があると思います。

『羽島住宅建替事業』については、老朽化した建物は早急に整備する必要がありますが、地域住民の声をよく聞きながら、行政としての判断をしていただければと思います。

また、『福川漁港関連施設整備』については、合併と同時に不要となったため、廃止が妥当としていますが、土地を生かすための検討もお願いします。

富田地区コミュニティセンター整備事業につきましては、コミュニティセンターが富田西小校区にないため、非常に不便であると同時に、現在、公民館が閉鎖して、いろんな集会の妨げになっているため、早急な整備をお願いします。

(仮称) 学び・交流プラザ整備事業につきましては、施設整備等が進捗していますが、次世代を担う市民に高い評価を得られるよう、先見性のある総合的な市の生涯学習拠点施設として整備されるよう要望します。

2. 今後のまちづくりについて

ハード事業について

ハード事業、ソフト事業に分けていますので、ハード事業から説明いたします。

新南陽地区を新たな視点で見つめなおし、都市力の向上を図り、「住みよさ日本一」を目指すためのキーワードは、「安心度・利便度・快適度・富裕度・住居充実度」であると考え、それに基づいた方向性で答申しました。

特に、津波や高潮をはじめとした災害時の避難通路を含め、拠点施設の整備には格別の対応が必要であると考えています。

まず、都市計画道路の中溝線ですが、県道等との接続道路が無く、不便であります。

また、この地区には市営住宅や民営住宅の跡地も残っており、道路を設置しないと跡地の開発が出来ない状況になっていますので、早期の整備をよろしくお願いします。

川崎平野線は、富田川の右岸から富田東小学校にかけて、道路が非常に狭く、危険度の高い箇所でございます。

地域住民の気持ちを最優先に、安全面から見ても生活面から見ても整った道路の整備をしていただければと思います。

その他、都市計画道路として宮の前線の事業再開、また、永源山公園の再整備として東エントランス及び運動補助機能向上施設の整備も、早期の整備をお願いします。

ソフト事業について

ソフト事業につきましては、市職員の人材育成、専門知識を有する職員の育成は欠かせないので、その辺りを配慮していただきたいと思います。

その他、総合支所の在り方についてもご検討いただきたいと思いますが、学校図書館及び司書の充実については、多くの問題を乗り越え、旧新南陽市の予算に組み込まれた歴史が残っているという事情をくんでいただき、特段の配慮をお願いします。

最後になりますが、街区公園の活用、あるいは、市内の歴史、民俗及び行政文書・資料等の収集と保存、あるいは、住民の移動を保障する生活交通の充実といったものについても、ご検討頂きまして、お考えを示していただきたいと思います。

(仮称) 学び・交流プラザ整備事業について

学び・交流プラザに関して言えば、平成23年8月に出された新たな図面では、いつの間にかいろいろな設備が消えていました。

そこから、審議会で不満が出まして、地域審議会とは関係のない内容まで、委員さんから追及されたりと、多くの問題がありました。

市長からいただいた諮問と、学び・交流プラザのことは直接関係ないかもしれませんが、やはり、リーディングプロジェクト事業のひとつとして、早急に行う必要があるにも関わらず、着手が遅れたということで地域の不満が出たことも理解出来ます。

(仮称) 周南市公共施設再配置計画(案)について

公共施設の再配置計画につきましては、新聞記事に地域住民が驚いているということをご理解いただきたいと思います。

市長からの諮問である「今後まちづくり」のまとめに入った時期に、この再配置計画が問題になりました。

新聞記事を見た市民の不安、不満が募りまして、審議会も度々中断しましたが、答申も行わなければならないということで、審議会の運営に大変苦勞しました。

再配置において、新南陽、鹿野のプールの廃止は、地元の市民にとっては、大きなショックだったと思います。

「安心・安全を言われる市長が、子どもや幼児に海で泳げ、川で泳げというのか」という声まで出てくる始末でありました。

廃止するのであれば、代替案によるフォローがあれば市民も理解できますが、一方的な廃止、統合となると、やはり、市民感情が先に出てしまいます。

審議会では、皆さんの色々なご意見をまとめてきたつもりでございしますが、やはり、特定の内容が独り歩きすることは往々にありまして、話が左に行ったり右に行ったり戻ったりと、運営に大変苦勞したということをお伝えしまして、終わらせていただきます。

【熊毛地区地域審議会 酒井隆行 会長】

1. 新市建設計画の進捗状況について

熊毛地区に関する新市建設計画の進捗状況については、33事業のうち10事業が既に完成しており、15事業についても実施中ということで、75%が実現若しくは実現に向かっているところでございます。

残りの8事業についても、事案ごとに個別に考え方を示しながら、鋭意検討いただいているところでございますので、これらの進捗につきましては、あらためて感謝申し上げます。

次のページは、ソフト面の課題についてです。

残された課題としましては、大災害と申しますか、抑止できない事故が起きた場合に備えて、防災教育をいかに実施していくかが課題であると考えておりますので、よろしくをお願いします。

2. 今後のまちづくりについて

さて、計画期間終了後のまちづくりの方向性につきましては、計15名の幅広い分野のメンバーで検討した結果、数多くの具体的なご意見を頂きましたが、次に挙げる、2点に絞って答申をいたしました。

まずは、『熊毛地域の国道2号の歩道等の整備及び4車線化による安心・安全の確保』でございます。

関係資料を答申書に添付しており、結論は、当該資料の9ページにまとめて書いていますが、歩道等の整備及び全線4車線化の実現に当たっては、大きく3点のことにご留意いただければと思います。

それは、児童・生徒が安全かつ安心して通学が出来る環境にさせていただくこと、通勤・通学、通院や日常生活の利便性を向上させることが「住み良いまち・住みたいまち」につながることで、大規模災害に対する人・物の移動ルートの確保は喫緊の課題であること、そういった理由から、この事業を進めることを最優先でお願いしたいと思います。

このことにつきましては、国、県レベルへの要請が大事になると思いますが、何よりも市民の安心・安全を確保していくために、市独自の整備をお願いします。

続いて、『地域資源を活かしたまちづくりの推進』でございます。

熊毛地区は、ツルに代表されるわけですが、景勝地のほか、自然、歴史、文化が多く残っています。

周南市景観計画に掲げられた景観資源の観点からも、貴重で見ごたえのある素材が豊富に存在している地域であると考えています。

しかしながら、これらを生かしたまちづくりに取り組んでいく姿勢が足りず、逆に、放置された竹林などがはびこり、里山も荒廃している箇所が見受けられます。

今こそ、豊かな地域資源を十分に活用して、行きたい・住みたい、と思えるようなまちを目指すべく、課題解決に全力を投じていただきたいと思います。

進めるに当たっての課題は、資料の最後に記載しており、課題は5点ございます。

1点目は、アクセスの改善です。

市民ボランティア団体に関わることにより、経費の安いタクシー等を創設することで、誰もが安い経費で移動できるようにしていただければと思います。

2点目は、積極的な情報発信です。

単に、資源があるということだけでなく、具体的なお勧めコース等も紹介しながら、良い場所がある、ということをPRしていただければと思います。

3点目は、環境整備です。

環境を整備することで、地域の観光資源としての魅力が上がってくると思います。

4点目は、サイン計画です。

場所がはっきりわかるようなイメージを考えていく必要があると思います。

最後に、自然環境の破壊を解決するための課題です。

先ほども述べましたが、竹藪がはびこると、里山から景観が失われるため、それを防ぐために、地域住民と一緒に、もやいの精神で、竹林の侵入や拡大の防止が出来たらと思っています。

ご検討をよろしくお願いします。

【鹿野地区地域審議会 安永守 会長】

1. 新市建設計画の進捗状況について

新市建設計画の進捗状況につきましては、答申に記載していますので、お読みいただければと思いますが、その中でも、天神山公園入口に位置する老朽化した教職員住宅については、景観を害することはもとより、防犯上も非常に問題視されているため、多くの意見が出されました。

2. 今後のまちづくりについて

計画期間終了後のまちづくりの方向性につきましては、時代が変わってきたことあると思いますが、「利用頻度は低くとも必要な施設はある」ということはお伝えしたいと思います。

公共施設再配置計画では、総合支所や公民館、文化ホールの廃止等がありましたが、審議会では、これらは必要であるとの意見が多く出されました。

また、ファンタジアファームは周南市全体での土地と農村の交流施設として計画されていましたが、「姿がまったく見えてこない」、「事業を進めるのであれば、鹿野でぜひお願いしたい」という意見が上がりました。

そのほか、地域づくりということで、鹿野地区を、特色を生かした産業の職場にしていけるよう、我々も努力していきますし、市におかれましても、積極的に取り組んでいただき、新しい産業を作っていける人材の育成に尽力していただきますようお願いいたします。

3 市長あいさつ

平素より周南市政、とりわけ各地域の主体的なまちづくりにご尽力を賜り、深く敬意と感謝を申し上げる次第であります。

会長さんをはじめ各地区の委員の皆さまにおかれましては、平成23年10月より第5期委員を快くお引き受けいただき、これまで熱心にご協議いただきました。

ご説明された答申内容や、これまでの会議録等を拝見し、まちづくりに対する皆さんの熱い思いを強く感じているところでございます。

皆様方のそれぞれの地域に対する思いをこれからのまちづくりに生かすため、この答申を真摯に受け止め、本市のさらなる発展につなげてまいる所存であります。

地域審議会は本年度で終了いたしますが、市勢振興への変わらぬご支援ご協力をお願いするとともに、皆さま方の今後ますますのご健勝とご活躍を祈念し、私のお礼のごあいさつとさせていただきます。

本日は、誠にありがとうございました。

4 閉会